

原 著

緑内障と禁忌薬 第1報

当院眼科外来における緑内障患者の禁忌薬使用実態調査

遠藤 奈奈<sup>\*1)</sup> 鈴木 敦子<sup>\*1)</sup> 片桐 歩<sup>\*1)</sup> 青木 一秀<sup>\*1)</sup>  
 長部 千絵子<sup>\*1)</sup> 早川 博明<sup>\*1)</sup> 根岸 仙一<sup>\*1)</sup> 信田 和男<sup>\*2)</sup>

当院使用医薬品のうち、緑内障（閉塞隅角）に禁忌とされる111剤（7.2%）が閉塞隅角緑内障患者さんにどの程度使用されているのか、実態調査を行った。

〔調査対象〕平成11年4月1日～30日

〔対象〕閉塞隅角緑内障患者：83人

（緑内障患者のうちの33%）

カルテまたはコンピュータシステムにより、83人について当院他科受診による緑内障禁忌薬の処方状況を調査したところ、16人（約20%）の患者さんに禁忌薬が処方されていた。

この16人の処方科・禁忌薬及び眼科的的外科処置の施行（施行により禁忌薬投与可能）の有無などをまとめ、問題のある4人の患者さんに眼科的的外科処置または、禁忌薬処方中止の対処をした。また、禁忌薬の処方を未然に防ぐために、緑内障患者さんに対する禁忌薬の一覧表を各科医師に配布した。

キーワード：緑内障禁忌薬 閉塞隅角緑内障 眼科的的外科処置

〔はじめに〕

我々薬剤師が、薬の飲み合わせをチェックするに当たり、緑内障患者さんへの禁忌薬投与は、多くの割合を占めると思われる。実際に当院採用医薬品1546剤のうち、緑内障に禁忌とされる薬（以下、緑内障禁忌薬）は、内服・外用・注射薬合わせて111剤（80品目）と、7.2%（表1）も占めている。

現在、緑内障禁忌薬は、ほとんどが抗コリン作用、交感神経刺激作用を有しており、その作用により散瞳を起こしうるものである（図1）<sup>1)</sup>。散瞳状態では虹彩は弛緩し、虹彩と水晶体の接触面積が大きくなり、後房から虹彩と水晶体の隙間を通り前房に流れる房水が通過しにくくなる結果、後房内圧が上昇し、もともと隅角が狭い眼では虹彩根部が隅角へ押しつけられ、これを閉塞し急性緑内障発作あるいは、慢性原発閉塞隅角緑内障の増悪を引き起こす可能性がある（図2）<sup>2)</sup>。従って、狭隅角眼や原発閉塞隅角緑内障を有する患者さんでは、散瞳を起こしうる薬剤は禁忌であると言える<sup>3)</sup>。そこで、当院の緑内障患者さんのうちの、

表1 緑内障禁忌薬一覧表

薬効分類		商品名	薬効分類	商品名
眼薬類 眼不安錠	眼不安錠	ハルシリン	その他の中枢神経作用剤	アミグダリン
		ロゼパノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
抗不安薬	抗不安薬	ソラノール	その他の鎮痛剤	アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
抗不安薬	抗不安薬	ソラノール	その他の鎮痛剤	アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン
		ソラノール		アミグダリン

長岡中央総合病院 薬剤部

閉塞隅角緑内障患者さんを対象に禁忌薬使用実態調査を行った。

\*1) 〒940-8653 新潟県長岡市福住2丁目1番5号

長岡中央総合病院薬剤部

\*2) 同 眼科

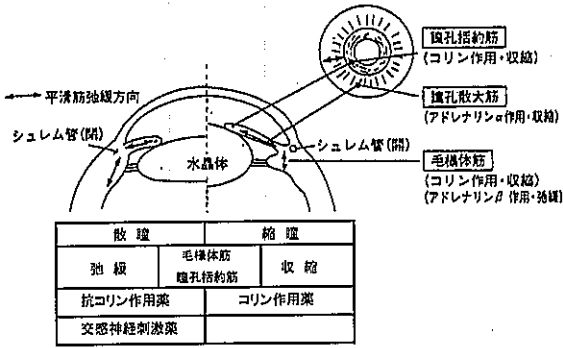


図1 眼と薬剤

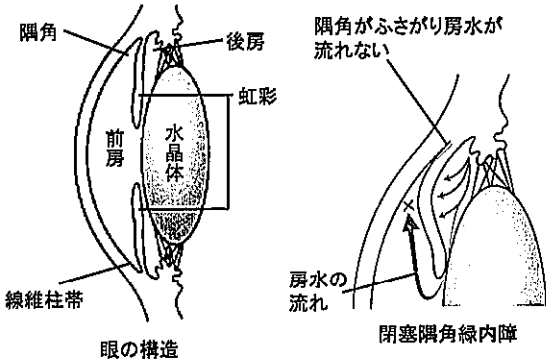


図2 閉塞隅角緑内障の眼圧上昇機序

【方法】

調査期間：平成11年4月1日～30日

調査対象：

当院外来受診者総数22640人

眼科外来受診者数1935人（全体の8.5%）

緑内障 250人（眼科受診者の13%）

緑内障の分類

- 原発開放隅角緑内障 99人
- 原発閉塞隅角緑内障 62人
- 正常眼圧緑内障 37人
- 続発開放隅角緑内障 31人
- 続発閉塞隅角緑内障 21人
- 先天緑内障 0人

以上、原発・続発合わせて83人の閉塞隅角緑内障患者さんが実態調査の対象となった。

【結果】

カルテ及び医事課コンピュータシステムによる調査を行った。

83人の年齢構成は、70才前後を中心として高齢者に多くみられた（図3）。

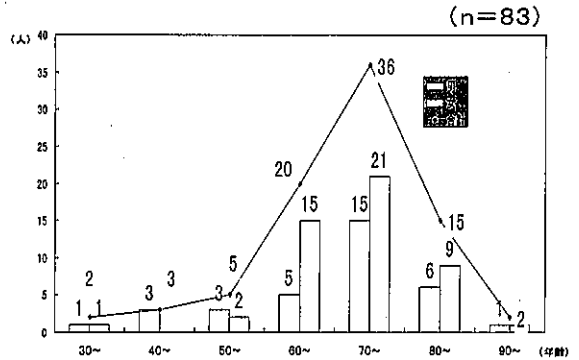


図3 閉塞隅角緑内障年代別患者数

当院他科受診による緑内障禁忌薬の処方状況を調べたところ、16人（約20%）の患者さんに禁忌薬が処方されていた（表2）。

表2 当院閉塞隅角緑内障患者83人のうち緑内障禁忌薬服用患者16名（19.3%）

年齢	性別	受診科	禁忌薬(1日量)	眼科的外科処置の有無	対応	子の他受診科
76	M	内科	セルロン(2mg)2T	OLIT(1998.6年)	LIT実態 # 疑義照会	歯科
76	F	内科	アセバ(7.5mg)1T	OLIT(1998.5)		
73	F	内科	アセバ(10mg)3c	失明		
63	F	内科	ロドミン(0.25mg)1T	x		
74	F	内科	デハス(0.5mg)1T	x		
59	M	内科	デハス(0.5mg)1T	x		
60	M	内科	セルロン5mg(頓服)	OTアセバ(1992.10)		
62	F	耳鼻科	イララクス(1mg)2T	OLIT(1998.11)	疑義照会	内科
		神経内科	コルゲン(0.4mg)2T			
60	M	神経内科	コルゲン1.0g	OTアセバ(1996.3)		
73	F	神経内科	アセバ(7.5mg)1T	x		
		神経内科	コルゲン2.0g			
83	F	整形外科	アセバ(10mg)3c	OLIT(1987.9)		
63	F	整形外科	デハス(0.5mg)1T	OLIT(1997.11)		
79	M	整形外科	イララクス(1mg)2T	OLIT(1997.10)		整形外科, 泌尿器科
62	F	泌尿器科	ネラキス(2mg)4T	OLIT(1996.12)		
90	F	泌尿器科	ハルツァー(10mg)1T	OLIT(1995.4期)		内科 耳鼻科 神経内科 外科
62	M	泌尿器科	ハルツァー(10mg)1T	OTアセバ(1994.5)		
		呼吸器科	FLA 0g	OTアセバ(1994.10)		

LIT…レーザー虹彩切開術  
トラベクトミー…線維柱帯切開術

16人のうち7人（44%）が、内科に併診することにより禁忌薬が処方されていた。禁忌薬の薬効分類としては、催眠鎮静・抗不安薬が68%を占めた。これらの薬は緑内障以外の患者さん全般においても使用頻度が高く、長期にわたり処方される傾向にあるためと考えられる。

また、この16人のうち、1人は失明しており、房水産生能が停止した状態で眼圧はゼロに近いので、禁忌薬投与は問題なかった。11人は、レーザー虹彩切開術または、線維柱帯切除術などの眼科的外科処置がすで

に施行されており、禁忌薬を投与しても、理論上眼圧に影響を及ぼす可能性が低いと思われるが、実際に禁忌薬による影響がないかどうか調査中である。

眼科的外科処置を行っていない4人の対策について、眼科医に相談し、2人についてはレーザー虹彩切開術を施行した。59才男性については、前房が深いことにより、眼科では経過観察するというので、内科に疑義照会し、中止となった。73才女性についても、神経内科に疑義照会し、中止となった。

#### 〔考 察〕

緑内障患者さんは、一般に高齢者に多いため併診科も多くなり、禁忌薬が処方される機会も高くなると考えられる。当院での1ヶ月間の調査においても、実際に眼科的外科処置もなく、禁忌薬が処方されていた患者さんが見られたことや、当院以外の医療機関による禁忌薬投与の可能性も考えられることから、他科・他医療機関受診の際には、病名を医師に伝えることが肝

要であり、そのためにも、患者さん自身の意識の向上が必要と思われる。

また、各科医師にも、緑内障禁忌薬を十分把握してもらうことが重要だと考え、緑内障禁忌薬の一覧表を作製配布し、活用して頂いている。

そしてこれからも、患者さん自身が治療のために処方された点眼薬を、適正に、確実に使用できるよう、我々薬剤師は、患者さんのコンプライアンスを高めるために、さらなる薬剤情報提供に取り組んでいきたいと思う。

#### 参 考 文 献

- 1) 旭満里子ほか：緑内障と緑内障治療剤，月刊薬事 Vol.38, No.9(1996)p145～163
- 2) ファルマシア・アップジョン「キサラタン®」資料より
- 3) 道薬誌 Vol.14, No.9(1996)p16

Original Article

# Glaucoma and contraindicated drugs. 1. Survey on the actual use of contraindicated drugs by glaucoma patients in the ophthalmology department of our hospital.

Nana Endo<sup>\*1)</sup>, Atsuko Suzuki<sup>\*1)</sup>, Ayumi Katagiri<sup>\*1)</sup>,  
Kazuhide Aoki<sup>\*1)</sup>, Chieko Osabe<sup>1)\*</sup>, Hiroaki Hayakawa<sup>\*1)</sup>,  
Senichi Negishi<sup>\*1)</sup>, and Kazuo Nobuta<sup>\*2)</sup>

We conducted a fact-finding survey to determine the extent to which the 111 drugs (7.2%) drugs used in our department that are considered contraindicated in glaucoma (closed angle) were actually being used by glaucoma patients.

Survey period: April 1-30, 1999

Subjects: Closed-angle glaucoma patients: 83 (33% of the all glaucoma patients)

When we investigated the status of prescription of drugs contraindicated in glaucoma in other departments in our hospital on the basis of a review of the 83 patients' medical charts and the computer system, we found that 16 of them (approximately 20%) had been prescribed contraindicated drugs.

We tabulated the prescribing departments and contraindicated drugs in these 16 cases and whether the patients had undergone eye surgery (possibility of administration of contraindicated drugs if it had been performed), and we managed the 4 cases in which there were problems by eye surgery and by stopping prescription of the contraindicated drugs. In addition, to prevent contraindicated drugs from being prescribed to glaucoma patients, we distributed a chart of drugs that are contraindicated in glaucoma to the physicians in every department.

Key words : contraindicated drugs in glaucoma, closed-angle glaucoma, eye surgery management

---

<sup>\*1)</sup>Department of Pharmacy, Nagaoka Chuo General Hospital  
Fukuzumi 2-1-5, Nagaoka, Niigata 940-8653

<sup>\*2)</sup>Department of Ophthalmology, Nagaoka Chuo General Hospital